

ホッキガイの肥満度調査

福島県水産試験場相馬支場

平成13年度事業報告書

1 部門名

水産業－資源管理－ホッキガイ

分類コード 19-04-55000000

2 担当者

加藤 靖・佐藤美智男

3 要旨

相馬市磯部において、平成9年の初め頃から地先のホッキガイが痩せ始め、商品価値が低下しているとの情報があった。そこで、県内の他の主な産地である請戸及び四倉を含め、それら地先のホッキガイについて肥満度を継続的に調査し、その原因を検討した。

- (1) 問題提起のあった平成9年の磯部地先のホッキガイ肥満度は、5月に6.6(最高値)、11月に4.6(最低値)を示した。平成11～13年度の平均値(5月－7.6:最高値、11月－5.8:最低値)と比較すると、満度の値は明らかに低く、平成9年は特異的な年であったといえる。
- (2) 平成9年の漁場環境は、冬期の本県沿岸水温が例年よりも高めに推移し、磯部地先ではホッキガイ生息密度が例年よりも高かったことが観察されている。しかし、その後沿岸水温が平成9年と似たような経過を辿った年でも同年のような肥満度低下は認められなかった。また、ホッキガイが高密度に生息した地点でも急激な肥満度の低下はみられず、平成9年の肥満度低下の原因ははっきりしなかった。
- (3) 磯部以外では、請戸での肥満度は平成11～13年度の平均値で5月に7.0(最高値)、11月に5.6(最低値)を示した。また、四倉での肥満度は同じく平均値で6月に6.0(最高値)、12月に4.6(最低値)を示した。
- (4) 平成11～13年度で 磯部・請戸・四倉のホッキガイの肥満度を比較すると、磯部と請戸の間では大きな差は認められなかったものの、四倉では磯部・請戸に対し、高い時期で1.2～0.5、低い時期で1.7～0.4それぞれ低く推移した。

4 その他の資料等

なし